

“社会工学データサイエンス・ケースバンク” への招待



筑波大学 理工学群 社会工学類長
鈴木 勉

数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進

令和3年度要求額 10億円
(令和2年度予算額 10億円)
※国立大学法人運営費交付金の内数



文部科学省

● 背景・課題

- ✓ デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要
- ✓ AI戦略2019では、**2025年度を目標年度**として、**①文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人 卒/年）が初級レベルの能力を習得**すること、**②大学・高専生（約25万人 卒/年）が、自らの専門分野への応用基礎力を習得**することが掲げられている

⇒ ・上記目標に向け、国公立大学等への展開を引き続き取り組む必要

- ・全国への普及・展開をより一層加速するため、数理・データサイエンス・AI教育に必要な教材開発や教育リソースの整備を進めるとともに、教育の実施体制の強化など図る必要

取組内容

- **6大学を拠点校**として、全学的な数理・データサイエンス・AI教育を先行的に実施するとともに、拠点校を中心に形成するコンソーシアムにおいて、**モデルカリキュラム**を踏まえた**教材等の開発**や、教育に活用可能な**社会の実課題・実データの収集・整備**等を実施

- **30大学を協力校・特定分野協力校**として、**全国の国公立大学等への普及・展開**を図るとともに、教育連携ネットワークを形成し、**教えることができる教員を増やすためのワークショップ**や**FD活動等を実施**

※協力校と特定分野協力校は重複している大学あり

- **61大学を連携校**として、自らの教員を養成するとともに、ワークショップやFDに積極的に参画し、数理・データサイエンス・AI教育の普及・促進の観点から、地域における大学との連携等を主体的に実施

+

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の構築・運用



“つくばの社工”とは？

社会問題に対して、数理的アプローチを適用して
ソリューション（解決）に結びつけること



“つくばの社工”の目的は？

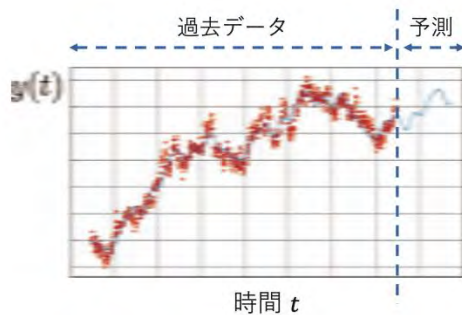
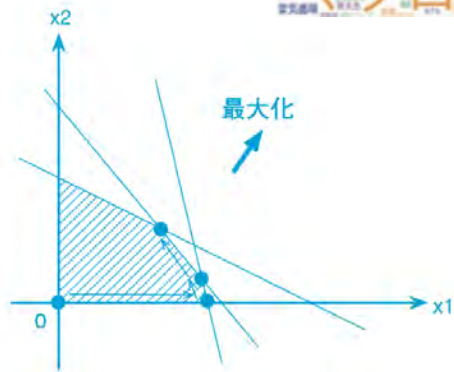
複雑に絡み合う社会問題のメカニズムを

科学的・工学的に理解し、

新たなよりよい社会システムを提案できる

人材を育成すること

社会経済システム主専攻、経営工学主専攻、都市計画主専攻 という3つの主専攻を用意



人間行動の場を形成する3つの領域

企業・自治体などと連携したデータ活用研究事例を集積し、 授業や卒業研究で活用できる「データサイエンス・ケースバンク」を構築

2020年度：データ活用実事例を集積し、授業と連動可能な「データサイエンス・ケースバンク」構築着手

2021年度（社工カリキュラム2.0）:既存カリキュラムをAI、IoTなど最新の技術動向を踏まえ補強

